

第2学年 道徳学習指導案

平成30年2月14日（水）
場所 学芸大学附属世田谷小学校
時間 2:00～2:45
対象 2年2組児童（35名）
場所 2年2組教室
授業者 面川怜花

教科化時代に向けた道徳授業 ～主体的・対話的な学びとその評価について～

主張

教科化時代に向け、評価のあり方を考えていかなければならない。そのためには、まず教師自身が授業改善に努める必要がある。評価の方法論に偏った授業改善ではなく、45分の中で子どもの心をどのように耕していくか、という授業改善である。他教科領域との連携によって道徳的諸価値がより深まる場合もある。そういった総合的な学習は積極的に行っていくことの必要性を感じる。一方で45分の道徳の時間のあり方もまた考えていく必要があると考える。そこで、今回は総合学習を生かしながら友情信頼をテーマに「45分」という時間の中で道徳的諸価値について追求していくための授業のあり方を提案する。

- 1 主題名 友達を思い合う心 （B 友情信頼）
- 2 教材 「やもじろうとはりきち」 絵本 偕成出版社
- 2 主題設定の理由

（1）道徳的価値について

友達の存在は、最も重要な人間関係のひとつである。学校は様々な活動を学級・学年の友達や異学年の子との関わりによって成り立っている。その中でも、友達関係が学校生活の充実を大きく支えていることは確かであろう。そしてその関係はのちに卒業後も続く大切な関係となっていく。ただ、小学校の段階で友達が自分の学校生活を支える大切な存在ということに自ら気づいたり実感したりすることは簡単なことではない。そうした意識で生活していないからだ。いつも何気なく関わっている友達、当たり前にいる存在に対して「友達がいるから〇〇」と考えながら生活することはほとんどないだろう。だが、そういう経験や体験は生活のあちらこちらにある。だから、それを自覚し改めて実感する機会が必要なのである。そうした実感を積み重ねることで、時に友だち関係で葛藤しながらも、その葛藤を経て友達がいるよさをより強く感じるようになる。低学年期の子どもは自己中心性が高く、自分の思いを通そうとトラブルが起きることも少なくない。だからこそ、自己中心的な思いと相手を思う思いが時に葛藤を生む。その葛藤を通して相手を信じる心や、相手を思う心、自分にとっての友だちの存在を再度感じる事が、仲良くすることや助け合うことの行為を支えることとなるだろう。

（2）教材について

やもじろうとはりきちは大の仲良し。だが、だんだんやもじろうははりきちと一緒にいることを嫌が

るようになる。そして他の友達もまた、はりきちと一緒にいることを拒み、やもじろうに言う。やもじろうはついに「もう、お前とは遊ばない。ついてくるな。」とはりきちに言うも、はりきちは笑顔でついてくる。「どうして」と聞きながらついてくる。やもじろうに突き飛ばされたにもかかわらず笑っているはりきちに、やもじろうは「はりきちなんて大嫌い」と去ってしまう。その後、猫に食べられそうになるやもじろうをはりきちが助け、いつもどおりサッカーを始める。という話である。

この教材はやもじろう側、はりきち側、どちらの視点でも友情信頼について考えを深められる教材である。やもじろう側は、周りの友だちの影響を受け、これまでの関係を見つめ、はりきちといった距離を置きたいという思いを感じる。一方で、「だいじょうぶ」や「ありがとう」など、はりきちに対する何気ない一言からはりきちが本当に嫌ではないという思いも感じる。

はりきち側は、やもじろうにどんなに言われてもずっとついていく姿や、落とされても笑っていた姿から、やもじろうに対する思いを考えさせたい。

今回は、「どちらが友達を思っているか」という問いを通して友だちを思う心について考えていきたい。例えば「はりきちは助けたから、やもじろうを思っている。」という行為に着目するのではなく、それを支える思いについて着目していきたい。その上で自身の経験を語る姿がたくさん見られるようにしたい。

(3) 児童について

本学級はけんかも多いが、一方的に言い合い落ちついた後、互いの話を聞いて解決しようとする子どもが多い。3学期はクラス替えを控えているからか、あのね帳(毎日の日記)で友達のよいところをたくさん書いてくる。Mさんが「みんなの優しいところを日記に書きませんか」という発言がきっかけだった。時々、担任から子どもたちにその日記を読むことがある。子どもたちは自分のことだと喜び、自分のことでなくても笑顔で聞いている姿があった。日記の中だけでなく、みんながいるでも見られるようにと、担任から学級掲示(りんごカード)を提案し、取り組みを始めている。また、係活動では「みんなが〇〇できるように」と遊び係やお笑い係など積極的に行っている。そうした活動でも友達がいるよさは実感できるだろうが、本授業は、そういった決められた活動の中でのよさだけでなく、学校生活の何気ない部分への着目をしたい。

3 研究テーマとの関連について

主体的な姿とは、子どもが道徳的価値について教材と自らの経験を重ね合わせながら語る姿と考えている。また、その姿が互いに語られることを通して対話が生まれる。対話とは、話す話題が深まっていくことである。本授業では、教材の距離と自身の距離を縮める手立てとして、立場を明らかにして話し合いができるよう、ネームプレートを活用する。また、子どもの思いがより子ども同士で理解できるようにする手立てとして、言葉にならない思いは適宜演技を織り交ぜて伝えさせる。評価については4に述べる。

4 評価への取組

- ・ノート(読書ノートを活用した評価)

本校では週1回メディアの時間がある。主に本の貸し出しをしたり読んだりする図書の日である。さらに、定期的にメディアの先生が読み聞かせをして下さっている。そして、読み聞かせを聞いた子どもたちは読書ノートというノートに書き貯めていく。また、自身が借りた本も毎週3冊分書き貯め

る。そうした取り組みを1年生の2学期から行っている。今回は、その読み聞かせをして下さっている絵本の中から1冊、学習材として活用した。読書ノートには教材を通して思ったこと・気づいたこと・考えたことなどが絵と文で書かれている。学習を経て、改めて絵と文で読書ノートを書くことで、はりきちや、やもじろうの思いと自身の経験を重ねた思考の深まりを見取る。

・発言や役割演技

友だちを思うはりきちや、やもじろうに自我関与する姿や、友だちを思う心について振り返り、自身の経験や思いを語る姿から見取る。

5 本時のねらい

やもじろうに対するはりきちの思いを考えることを通して、自身の周りにいる友達との関わりを見つめ、友だちを思い合う心を育てる。

6 本時の展開

	主な学習活動 (・→予想される子どもの反応)	○留意点 ※評価
導入	1 メディアの時間の振り返り 【友達を思い合う心ってなんだろう】	○子どもたちの読書ノートから数名紹介をし、本時の学習への意欲を高めさせる。 ○内容理解が不十分であれば、再度範読し理解を促す。
展開	2 教材をもとに話し合う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">はりきち、やもじろう、どちらが友達思いなのか</div> ◇はりきちはどうして、やもじろうを助けたのだろうか ・友達だから・困っていたから →もっと仲良くなりたい。 →一緒に遊びたい ◇はりきちは、どうして突き飛ばされたとき笑ったのか ・嫌われたくなかったから ・あっちいけと言われていたのに、「だいじょうぶ」と声をかけてくれたから嬉しくて ◇やもじろうに友達を思う心はなかったのか	※はりきち、やもじろうと立場を明らかにしてそれぞれ友だち思いの部分の語ることができる(発言) ○比較しつつ、本時は、はりきちに焦点をあて、考えさせる。 ○はりきちは、助ける前に、やもじろうを道ばたで待っていた部分から、どんな思いで待っていたのか考えさせる。 ○ひどいことを言われてもずっと、やもじろうについていくはりきちの思いや、突き飛ばされても笑っていたはりきちの思いを考えさせることで、やもじろうへの思いの強さを感じさせる。 ○やもじろうにも、友だちを思う心があったのではないかと考えさせることで、行為の奥にあるやもじろうの、はりきちへの思いにも気づかせる。 ○どちらか一方が思っていたわけではなく、形は違うけれど、どちらも友だちを思っていたのではないかということへの気づき

	3 あなたが考える友達を思い合う心ってどんな心？	
	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を信じ続ける心 ・相手を思い続ける心 ・大好きな心 ・正直に言う心 	<ul style="list-style-type: none"> ※友達を思い合う心について考えることができる ※自分の生活を振り返り、友達を思い合う心を感じたことを語るができる。
終末	<p>4 今日の学習のふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達を思い合う心について ・自分と友達のことをノートに書く 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の枠を越え、自分の経験を絵や文で語らせる。 ※自分が学習を通して考えた「友達を思い合う心」とそれに関する自分のエピソードを読書ノートに絵と文でまとめることができる（ノート）

7 評価

- ・はりきち、やもじろうと立場を明らかにしてそれぞれ友だち思いの部分の語ることができたか（発言）
- ・友達を思い合う心について考えることができたか（発言・ノート）
- ・自分の生活を振り返り、友達を思う心を感じたことを語るすることができたか（発言・ノート）